

経営比較分析表（平成28年度決算）

熊本県阿蘇市 阿蘇医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	14	-	ド透訓ガ	救臨感災輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
27,204	11,336	第2種該当	10:1	

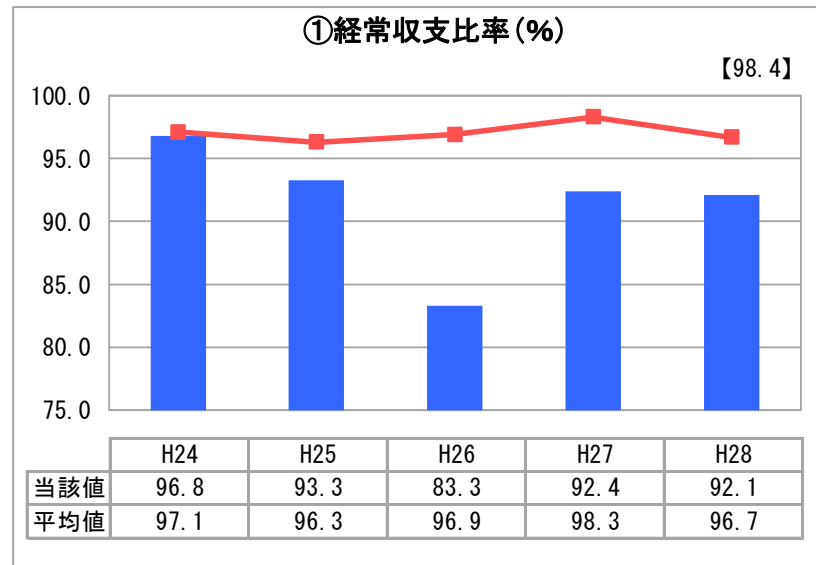
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

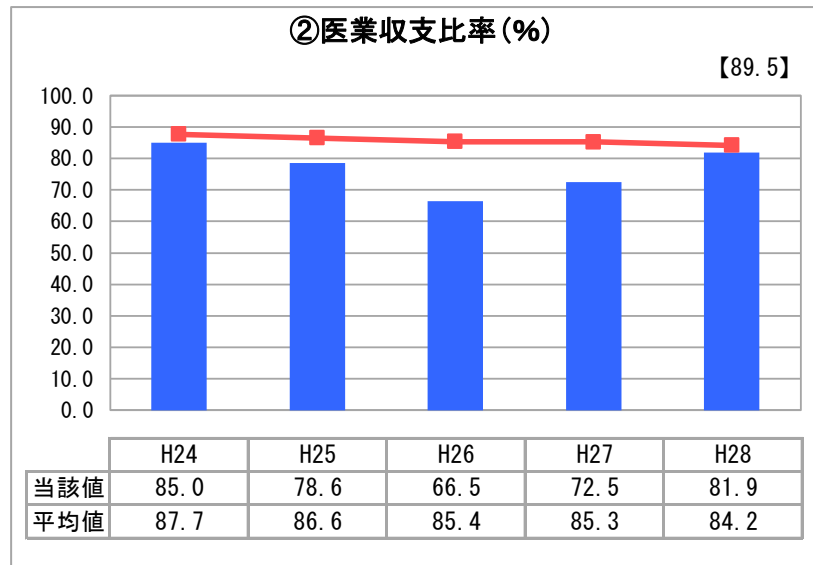
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
120	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	124
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
120	-	120

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	平成28年度全国平均

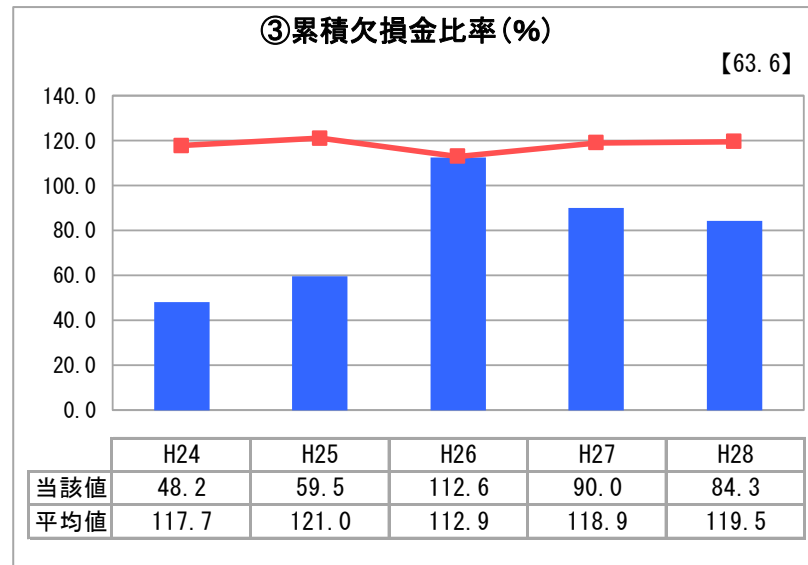
1. 経営の健全性・効率性



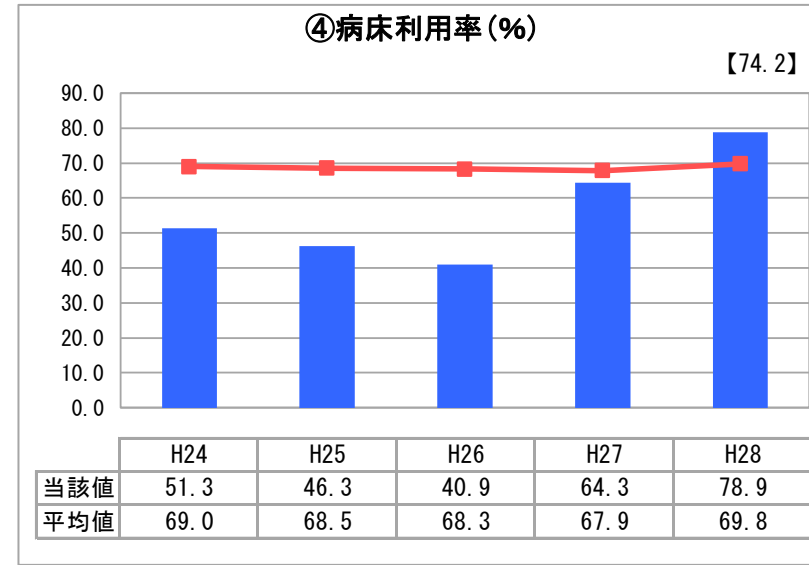
「経常損益」



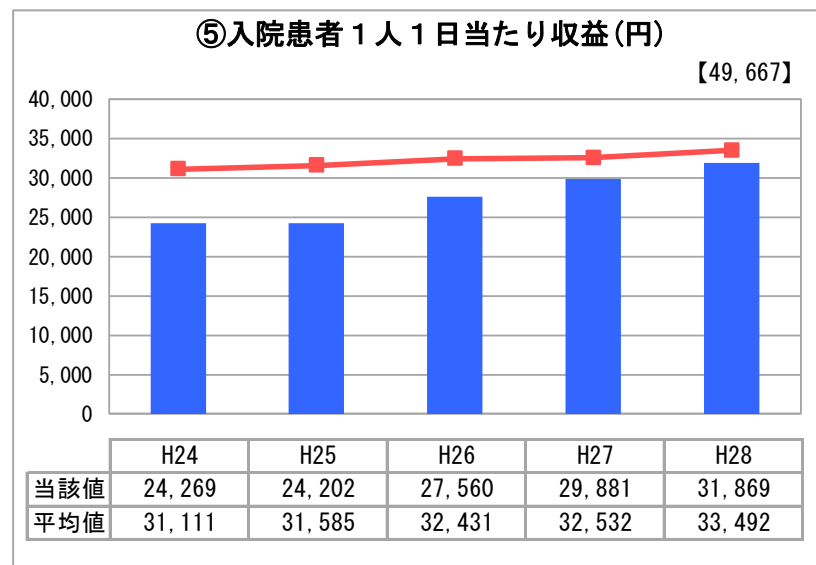
「医業損益」



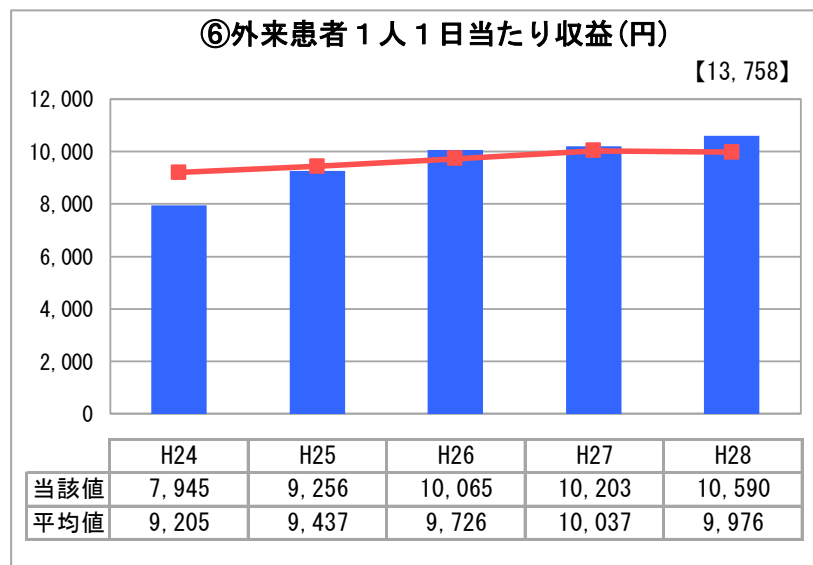
「累積欠損」



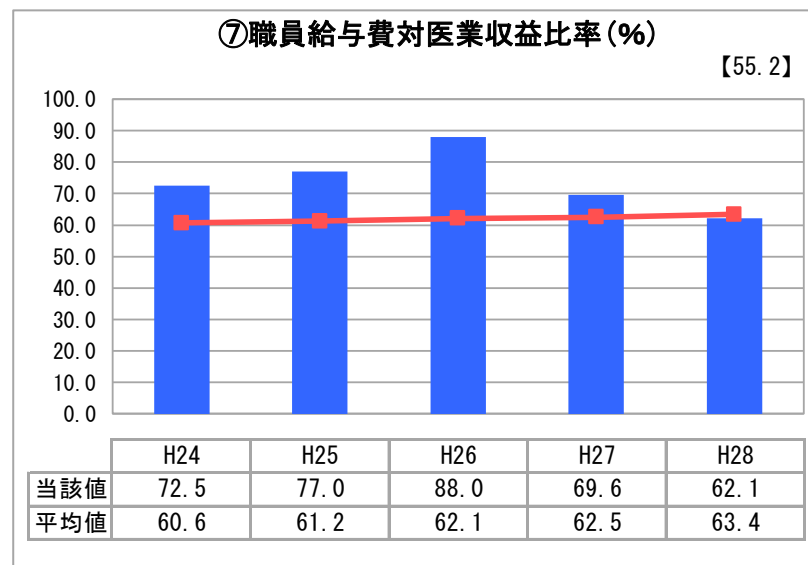
「施設の効率性」



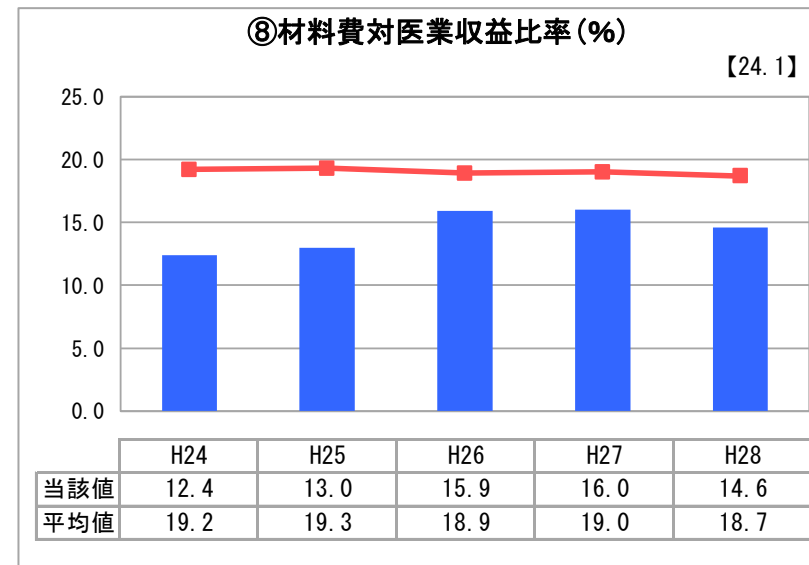
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

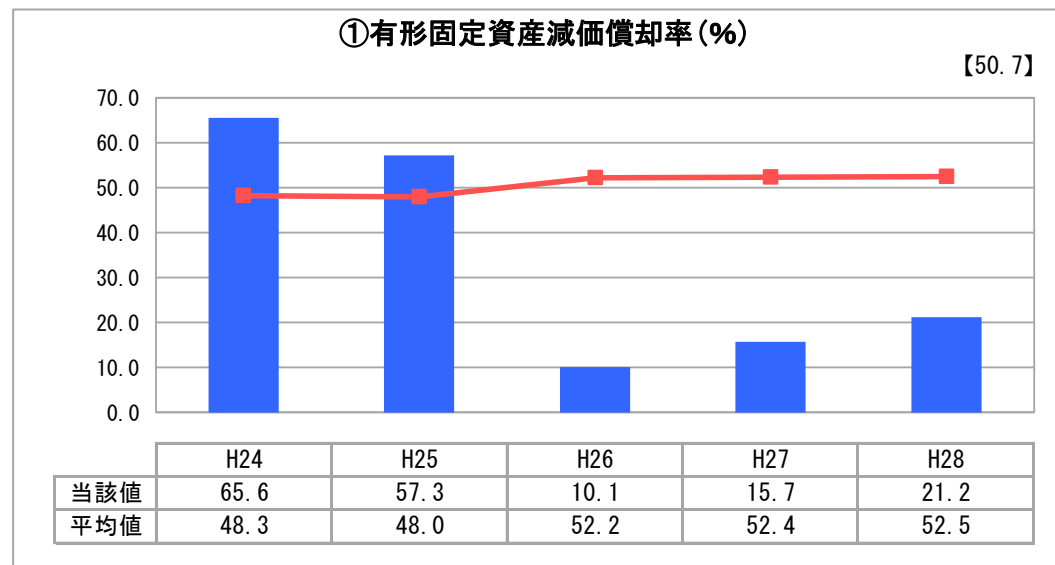


「費用の効率性①」

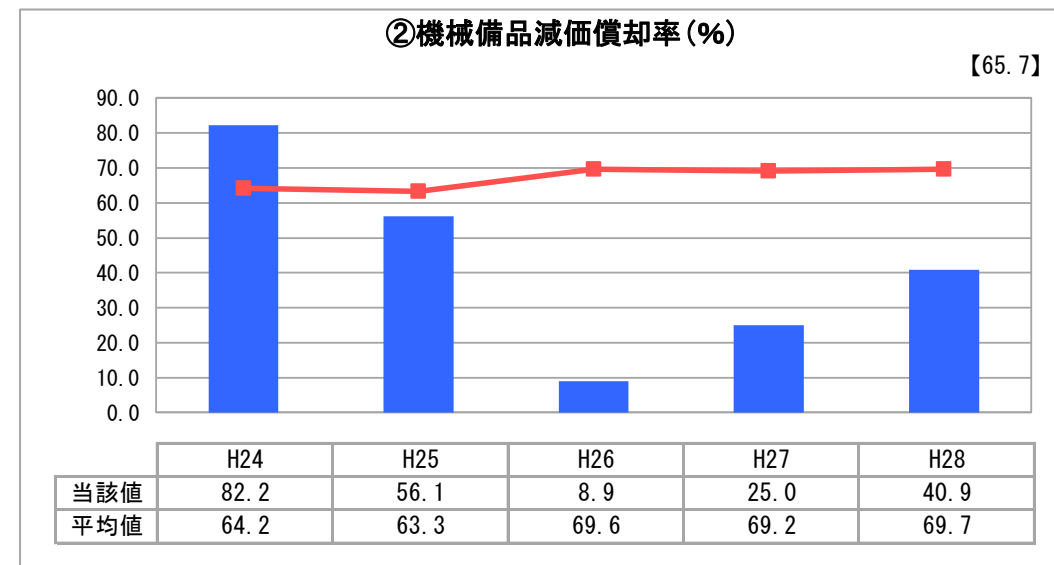


「費用の効率性②」

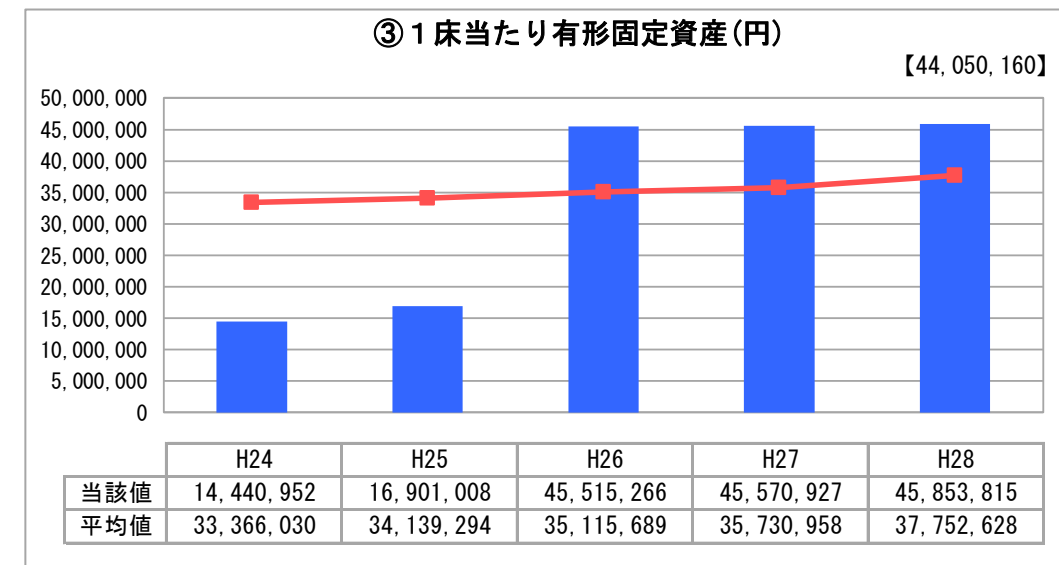
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

- ・救急医療等の不採算部門に係る医療の提供
- ・へき地等の民間医療機関の立地が困難な過疎地における一般医療の提供
- ・災害拠点病院として災害時に係る医療の提供
- ・基幹型研修病院と連携した初期研修医及び後期研修医（専門医研修）の受入れ体制の整備

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成26年度の移転開院時より常勤医師（5名）の不足による医業収益の悪化や移転新築に係る経費、公営企業会計制度の改正による退職給付引当金の計上等により、純損失▲762百万円でスタートしたが、平成27年4月には常勤医師が10名となり、入院・外来ともに患者数は増加傾向にある。平成28年度決算では熊本地震の影響（近隣病院の休業等）により、純損失▲187百万円となり、前年度と比較し、経常収支比率は横ばいとなった。今後も従前からの課題である医師確保に全力を挙げるとともに、歯科口腔外科等の新しい診療科目の導入（H30開設予定）により、医業収益の改善を図る。

2. 老朽化の状況について

本医療センターは平成26年8月に新築移転し、開院したことから、有形固定資産減価償却率等、機械備品減価償却率ともに類似病院平均値を大きく下回っている状況である。

全体総括

平成26年の移転開院後、入院・外来ともに患者数は増加傾向にあり、平成28年度決算値では、熊本地震の影響により、病床利用率は類似病院平均値を9.1%上回っているが、経常収支比率は依然として類似病院平均値を大きく下回っている状況である。今後も平成29年3月に策定した「阿蘇医療センター改革プラン」に基づき、常勤医師等の確保、専門外来等の導入による医業収益の増収、医薬品及び医療材料の削減等に積極的に取り組み、経常黒字化を目指し、経常収支比率の改善を図る。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。